平成28年度厚生労働科学研究費補助金
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
分担研究報告書

子宮頸がんワクチン接種後に生じた頭痛に関する治療に関する研究

研究分担者　平井 利明　(東京慈恵会医科大学神経内科)

研究要旨
子宮頸がんワクチン後の難治性頭痛に対する治療法を確立すること.

Ａ．研究目的

子宮頸がんワクチン後の副反応に頭痛･光過敏･歩行障害はしばしばみられるが、治療に難渋することが多い。これらの症状に対する治療方法を確立することを目的とした。

Ｂ．研究方法

我々は子宮頸がんワクチン後に慢性的な頭痛・光過敏を認める症例について, 背景に「脳脊髄液減少症」があると考え硬膜外酸素注入療法（EOI）を行いその有用性を評価した. 対象は2015年3月から2016年5月に慈恵医大病院を受診し子宮頸がんワクチン後に慢性的に頭痛・光過敏がありEOIに同意の得られた11症例（１６歳から２1歳の女性）. HPVワクチン接種前にてんかん, 統合失調症, 線維筋痛症, 自閉症と診断された患者は除外した。EOIによる治療効果を頭痛、握力、高次機能検査（MMSE、FAB、行動記憶検査）、歩行機能（up and go test）で評価した。

（倫理面への配慮）本研究は人を対象とする医学研究であり、東京慈恵会医科大学の倫理委員会の審査を受けている. 研究対象者に生じるリスク・不利益や、研究対象者が同意後に撤回が可能であることも明記されている. 本研究におけるEOIは、柏たなか病院で行われているが、全ての症例で（柏たなか病院でも）同意を得て行われている。

Ｃ．研究結果

EOIにより、11例中8例で頭痛が５割以上軽減した。統計処理の可能であった10例において、握力、行動記憶検査、歩行機能が治療前後で改善がみられた。MMSEとFABで改善はなかった。

Ｄ．考察

同様の症例を蓄積し、EOIの効果を確認・追跡していく必要がある。3例では脳槽シンチグラフィーで脳脊髄液減少症の間接所見の陽性を確認しえている。これらの検査でEOIの適応基準を決めていくことも望まれる。

Ｅ．結論

子宮頸がんワクチン後の難治性頭痛と歩行障害には硬膜外酸素注入療法が有用である可能性がある。

Ｆ．健康危険情報　なし

Ｇ．研究発表

1.　論文発表

・Hirai T, Kuroiwa Y, Hayashi T, et al. Adverse effects of human papilloma virus vaccination on central nervous system：Neuro-endocrinological disorders of hypothalamo-pituitary axis. The Autonomic Nervous System 2016; 53:49-64.

・平井利明, 黒岩義之ら. ヒトパピローマウィルスワクチン接種後の神経障害：他覚的検査所見について. 神経内科 2016 : 85 : 536-546.

2.　学会発表

平井利明，高木清ら．HPV ワクチン後の頭痛・光過敏を認める患者における硬膜外酸素注入療法の有用性について．第 69 回日本自律神経学会総会．熊本，2016 年 11 月.

Ｈ．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得　なし
2. 実用新案登録　なし
3.その他　なし